

政総第1394号
令和8年7月8日

神奈川県議会議長 杉本 透 殿

神奈川県知事 黒岩 祐治
(公 印 省 略)

質問趣意書に対する答弁書について（送付）

令和8年6月26日付け神議第1228号をもって送付のありました谷 和雄議員からの質問趣意書について、別添のとおり答弁書を提出します。

（ 問合せ先
政策局総務室企画調整第二グループ 飯島
内線 3026 ）

答 弁 書

● 厚木秦野道路のインターチェンジアクセス道路である渋沢小原線の整備に向けた取組について

渋沢小原線は、厚木秦野道路の（仮称）渋沢インターチェンジへのアクセス道路として、平成８年に都市計画決定された道路です。

この道路は、厚木秦野道路と一体となって機能し、この地域の広域的な移動性の向上を図るとともに、国道 246 号の渋滞緩和などに寄与する重要な道路であると認識しています。

そこで、県は、渋沢小原線を、県の道路部門の実施計画である「かながわのみちづくり計画」の「将来に向けて検討が必要な道路」に位置づけ、この道路を事業化していく上で必要となる、渋沢小原線周辺のまちづくりや道路構造などの課題について、地元秦野市が設置した勉強会に参画し、検討を重ねてきました。

こうした中、市による渋沢小原線周辺の土地利用の検討などの取組が着実に進んでいることから、今年３月の「かながわのみちづくり計画」の改定では、県が主体となって検討する「事業化検討箇所」へ位置づけを変更したところです。

県は、引き続き、秦野市と連携し、市が進めるまちづくりの状況を伺いながら、渋沢小原線の事業化に向けた検討を進めてまいります。

総 第 1792 号
令和 8 年 7 月 10 日

神奈川県議会議長 杉本 透 殿

神奈川県教育委員会教育長 花田 忠雄
(公 印 省 略)

質問趣意書に対する答弁書について（送付）

令和 8 年 6 月 26 日付け神議第 1228 号をもって送付のありました谷 和雄議員からの質問趣意書について、別添のとおり答弁書を提出します。

問合せ先
教育局総務室
企画調整グループ 宮下、鎌田
内線 8024

答 弁 書

● インクルーシブ教育の充実に向けて

○ インクルーシブ教育実践推進校の取組の効果について

インクルーシブ教育実践推進校では、すべての生徒が共に学び、多様性を尊重しながら成長することをめざしており、その一環として、生徒たちに「インクルーシブ教育講演会」や「パラスポーツ体験」など、相互理解を深める教育活動に取り組んでいます。

その結果、生徒たちからは「自分の価値観が当たり前ではないことに気付いた」などの意見が出ており、相互理解について着実に効果が上がっていると捉えています。

また、特別募集で入学した生徒についても、昨年度の卒業生の進路が、進学約39%、就職約32%となるなど、多様な進路実現につながっています。

県教育委員会としては、今後もこうした取組の効果が継続できるよう、インクルーシブ教育実践推進校の取組をしっかりと進めてまいります。

○ 秦野市の「インクルーシブな学校運営モデル事業」への関わりについて

秦野市教育委員会は、市立末広小学校を指定校として、令和6年度から国の委託事業「インクルーシブな学校運営モデル事業」に取り組んでいます。

県教育委員会では、市教育委員会が設置した「インクルーシブな学校運営モデル事業連携協議会」の構成員として、事業計画に関する協議等に参画しております。

○ 「インクルーシブな学校運営モデル事業」の捉えについて

平成28年度に、県教育委員会が市立末広小学校の敷地内に、県立秦野支援学校末広校舎を開設して以降、同一敷地内に2つの学校があることで、教員同士の情報交換や子ども同士の日常的な交流が行われてきました。

これに加え、令和6年度からの「インクルーシブな学校運営モデル事業」により、一緒に授業を行う機会が大幅に増えた結果、小学校の児童が支援学校の児童に、授業中積極的に声をかけたり、支援学校の児童が小学校の児童の行動に倣って授業に取り組むようになるなど、行動変容が見られるようになったと聞いています。

県教育委員会としては、本事業における研究成果が、両校の児童たちの教育活動の充実につながるよう、引き続き、秦野市教育委員会としっかりと連携してまいります。